在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/03 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集　これからの高校教育→大学入試→大学教育

大学入試センター試験がゆくゆくは、廃止にになり、新たなテストがスタートするという話は、マスコミ等でも報じられています。ただ、いろいろな報道がなされており、混乱している側面もあるようですので、今回は文部科学省が進めようとしている教育改革の中身について現段階でわかることを見てみたいと思います。「高大接続改革実行プラン」を、現段階で文部科学省が発表しています。

□１　文部科学省が進めようとする教育改革

教育改革について、突然報道されると、行き当たりばったりだという印象を受ける人もいるかと思いますが、実は 2007・2008 年ごろから「高大接続テストに関する調査・研究」や「高校と大学の接続に関する協議」が続けられていたようです。

大学入試センター試験の廃止についての報道が先行して、教育改革の肝心な部分が見落とされているようなので、改革のポイントを確認したいと思います。

文部科学省の HP に掲載されている「高大接続改革実行プラン」の中で、「このプランで重視する点」として書かれている文言を先ずは引用してみます。

①**高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜**は、相互に密接に関連し合うものであり、新しい時代にふさわしい高大接続の実現のためには、一貫した取組が必要であることから、**三者の一体的改革に取り組む**こと。

②義務教育段階の取組の成果を発展させ、高等学校教育、大学教育、**大学入学者選抜を通じて、**「知識・技能」のみならず、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な「思考力・判断力・表現力等の能力」や「主体性をもって多様な人々と協働する態度」などの**真の学力育成・評価**に取り組むこと。

③大学入学者選抜の改革にあたっては、**大学入試センター試験の改革とあわせて、各大学が個別に行う入学者選抜の改革**を推進すること。

④中教審で提言されているような既存の**「公平性」をめぐる意識を改革し**、一人ひとりが積み上げてきた多様な力を多様な方法で「公正」に評価し選抜するという理念をはじめ、社会全体で改革の必要性や方向性を共有して取り組みこと。

⑤改革を進めるにあたっては、高校生をはじめとした関係者が**見通しを持って対応**できるよう配慮すること。

（太字・傍線等は、原文にはありません。）

これをもとに、ポイントを考えてみたいと思います。

①大学教育は 20 ～ 30 年前とは違い、大きく変化しつつあります。文部科学省からの指導等により、大学教育の質的保証ということが叫ばれるようになりました。大学にも一定の改革をせまる内容です。高校教育の改革も叫ばれていますが、改革の進捗度合いは大学ほどではありません。そこで、大学入試をかえることによって高校教育・大学教育を変えていくというのが根本的なねらいです。

②「大学入学者選抜を通じて」という内容に注目しました。知識・技能だけでなく思考力・判断力・表現力や主体的に協働する態度を大学入試を通じて評価しようとしているのです。これは文言で書くのは簡単なことですが、実行するのは大変なことです。思考力や表現力だけでも大変なのに、態度も大学入試ではかるというのは、一般入試では至難のわざです。一般入試で全てをはかろうとするのか、多様な入試選抜方式を導入するのか、今後の展開に注目する必要があります。

③大学入試改革は「センター試験改革」なしにはありえないということです。現在の 1 回勝負のマーク式という実施方法では、はかることのできる能力に限界があるということです。現在のところ、複数回実施や記述式、教科科目の枠を越えて複数の教科科目にまたがる「合科目型」入試などが検討されています。新中学 1 年生が高校３年生になった時の大学入試から変わるというのが、現在の予定です。

④これが一番びっくりしたことです。「公平性」の意識を変えることが求められています。今までの１点刻みによる入試システムによる合否決定方法を「公平」だと当然のことのように感じていますが、この意識自体が「文部科学省的には」変革すべき意識となるようです。

⑤見通しを持って対応できるように、ことを進めると言っています。つまり、見通しをもって対応せよということです。

□２　大学入試センター試験の改革

現在の大学入試センター試験に変わる新しい大学入試のについて、現在のところ、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の２つに分けて実施するとのことです。基礎テストは平成 31 年度、評価テストは平成 32 年度からの実施を目指すということが発表されています。

「評価テスト」における「教科型」「合教科・科目型」「総合型」等具体的な枠組み、問題の蓄積方法、作問の方法、記述式問題の導入方法、ＣＢＴ方式の導入方法、成績開示の具体的な在り方などを検討し、平成 27 年度中に一定の結論をだすことを文部科学省は予定しています。

左の囲みの中で示されている「改革で重視する点」の②で書かれている内容を再度確認したいと思います。

> 「知識・技能」のみならず、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な「思考力・判断力・表現力等の能力」や「主体性をもって多様な人々と協働する態度」などの真の学力育成・評価

を実現する新テストの内容はどんなものになるのか、大変興味があります。暗記していたことをもとにマークするだけのテストにはならないことは明白です。センター試験がかわるということは、国公立大学が大学ごとに実施する個別入試や私大入試も変わるということです。ただし、変え方や変わる度合いは未知数です。

□３　在校生には関係のない話なのか

まず、在校生は、入学後の大学教育において、上の囲みに中のような力をつけることが求められます。「えっ、平成 32 年頃の話では」という声が聞こえてきそうですが、大学はある年から教育しなければならないと決まったことを、その年になるまで取り組まずに放っておき、決まった年から教育をはじめるなどということは絶対にしません。教育とはある一定のノウハウの蓄積を要する営みでもあるからです。その決まった年から始めていたのでは、その年に在籍している学生によい教育を提供できないと考えるのが自然です。調べたことをレ

ポートにまとめて発表したり、教員や学生とディスカッションしたりなどという授業は、卒業生の声を聞いている限りでも、10 年前とは比べものにならないくらい増えています。加えて、英語などの語学教育にも力を入れつつあることをひしひしと感じます。
　在校生のみなさんは、人ごとではありません。まずは大学側が示す「アドミッション・ポリシー」(入学者受け入れ方針) をきちんと読んで、その大学がどんな生徒を求めているのか、確認してみることからはじめましょう。こういう受け入れ方針を、ただ便宜上書いているだけだと思わないことです。真剣に書いている大学が多いですから、一度目を通してみましょう。そうすることによって自分が何をすべきか見えてくることもあると思います。

□おまけ　立教大学法学部に進学した先輩（現 1 年生）の話

　大学に合格し、さらにその後も力をつけていくために何が必要なのか、大学が何を求めているのか、そんなことを考えながら目を通してみて下さい。あくまでも卒業生個人の感想です。

Ｑ１　「法学部の楽しさはどんなところにある？」
　例えば、少年法などは、ニュース等で取り上げられる時は、法律が悪いように取り上げられることが多いですが、一方少年法によって効果があがっている事例もたくさんあるというように、社会をさまざまな側面から見ることができます。

Ｑ２　「法学部の勉強と、高校の勉強とがつながったという経験はあった？」
　数学の記述解答の書き方と、法学部のテストやレポートにおける論述の仕方とが同じであることに気づきました。ただ、違いは高校の数学の問題は正解がでるが、法学部の論述には正解がない場合も多いということ。

「だから、難関大の法学部では、数学の記述試験を科すのだろうか。」
　そうかもしれませんね。大学の勉強と高校の数学とは無関係ではないと知りました。

Ｑ３　「大学での生活を１年終えてみて、感じることは？」
　同じ試験をパスした人でも、こんなに法律への興味や大学での勉強に差が生まれるのかということ。自分は法律は面白いなと思っていろいろ、自分で調べたり、本を読んだりしているので、さらに楽しくなっていますが、本当に何のために大学にきたのかというぐらい、法学や法学的な考え方に興味がなさそうな人もいます。大学では、自分で考える、自分で深めていくことが1年生の時から求められます。

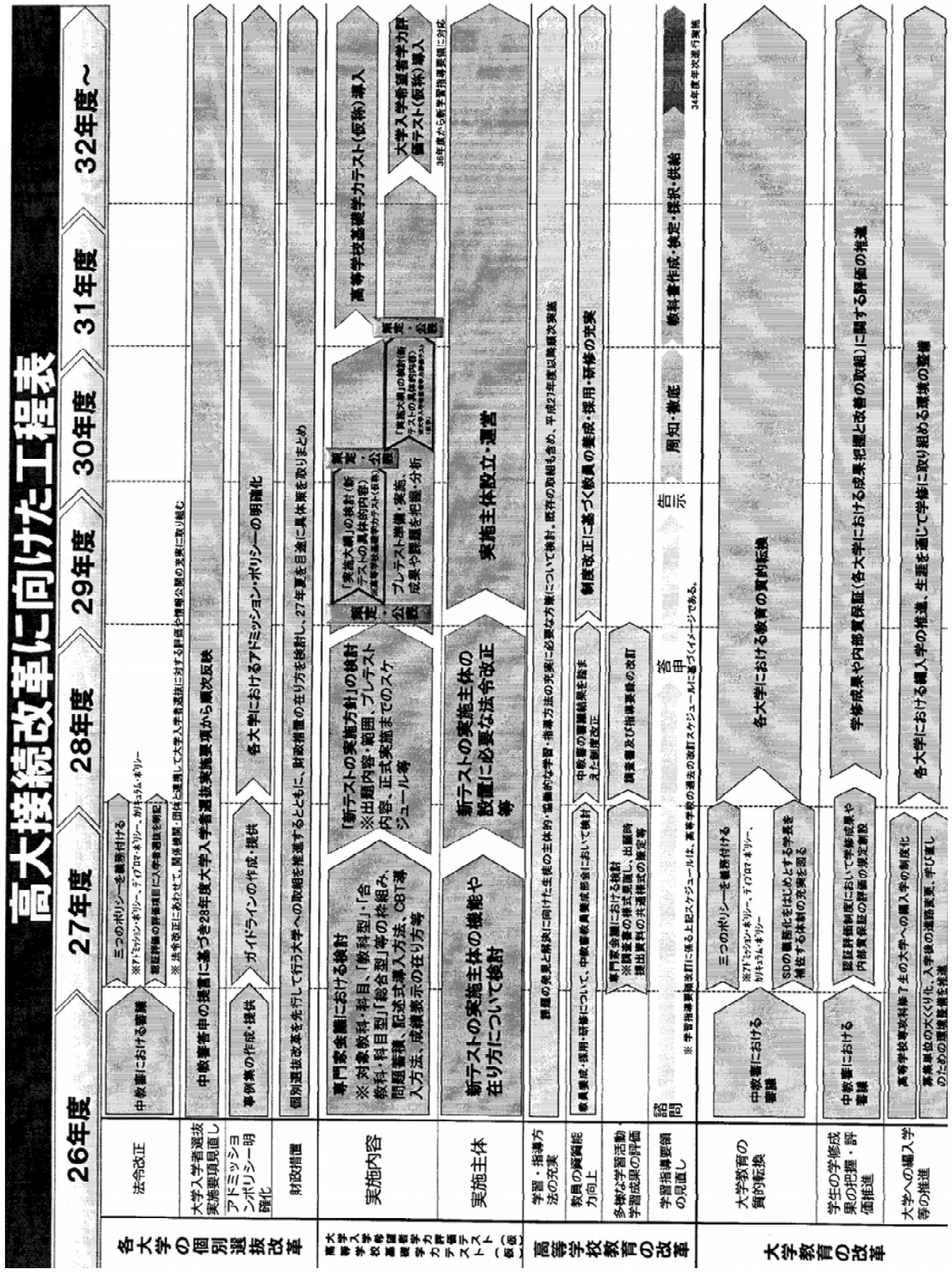
「でも、それは簡単にはできないだろう」
　法学に関する文献の読み方や、レポートの書き方に関する基礎的な方法を学べる授業はあるが、本当にキソのキソを学ぶだけ。それを自分のものにしていくためには、自分で文献を読んだりすることが必要です。自分でやらないと。そこまでは面倒みてくれないですよ大学は・・・。

「それで、差がでるわけか・・・」

Ｑ４　「法学部を目指す人に一言」
　疑問を持って生活することが大切。受験勉強一つとっても、なぜ模範解答を作った人はこの解答を考えたのか。この解答以外にないのかなど、ものごとを無条件に鵜呑みにするのではなく、疑問をもち、なぜだろう、こちらの考えではなぜダメなのだろう、と考えること自体が大切です。そういう習慣を高校生はもってほしいです。

Ｑ５　「ところで、きちんと生活してる？」
　けっこう自炊もしますよ。洗濯も。中学時代、親に生意気なことを言ったら、洗濯してもらえなくなった時期があって・・・。その時の経験がいきています。

「それはおうちの人に感謝すべきだ。時間のないなか、ありがとう。くれぐれも体には気をつけてよ。頑張って。」



そう考えると、ある年から大学入試自体を改革せよと言われても、大学側が準備をしていなければ無理な話です。思考力をはかろうとしても、どうやってはかるのか。全くそのノウハウがない場合、入試問題をかえることは難しいのです。大学側がさりげなく、そのノウハウを蓄えようとしても不自然ではありません。入試問題の一部をかえようと思っても不思議ではありません。私が入試問題を作成する立場なら、そう考えるのですがいかがでしょうか。